

Maple 15 コネクティビティの改良

はじめに

Maple 15 では、他のツールに対するコネクティビティが次の点で改良されています。

CodeGeneration

- [コード生成 \(CodeGeneration\)](#) パッケージでは、Maple のプロシージャやモジュールの一部を C# に変換できるようになりました。詳細は [CodeGeneration\[CSharp\]](#) をご覧ください。
- CodeGeneration コマンドの `optimize` オプションの値として、`tryhard` が利用できるようになりました。このオプションを利用すると、トランズレータが新しい内部オプティマイザを利用します。このオプティマイザはコードを最適化するための処理時間と使用メモリを最適化し、生成するコードの実行時間とメモリ利用も最適化します。

HTTP

- 新しい [HTTP](#) パッケージが加わり、ウェブ上のリソースからデータを取得しやすくなりました。従来 [ソケット \(Sockets\)](#) パッケージを用いてコードを何行も必要としたタスクが、ひとつのコマンドで実行できるようになりました。

```
> result := HTTP[Get]("http://www.maplesoft.com/");  
> HTTP[Code](result[1]);  
"OK" (3.1)
```

```
> type(result[2], 'string');  
true (3.2)
```

Excel 接続の強化

- [Excel ツール\(ExcelTools\)](#) パッケージが強化されました。
 - 新コマンド [ExcelTools\[WorkbookData\]](#) は、Excel ワークブックから、指定したシート・レンジのデータを抽出します。
 - [ExcelTools\[Import\]](#) コマンドにより、インポートされるスプレッドシート内の空白セルに入れるデフォルト値を指定することができます。従来、他のデータと混在する値のないセルには、インポートの際 0.0 の値を与えていました。今は、`emptycell=x` オプションを利用して空白セルに入れる値を指定できます。
- Microsoft(R) Excel 用の Maple アドイン
 - Excel 2010 への対応が加わりました
 - 32-bit と 64-bit Windows 両方対応

このアドインを利用可能にする方法については [Excel](#) ヘルプページをご覧ください。

MATLAB 疎行列のインポート・エクスポート

- 通常の (密な) MATLAB 配列を二進フォーマットで読み書きすることに加え、`ImportMatrix` と `ExportMatrix` は疎な配列も読み書きできるようになりました。詳細は [行列のインポート \(ImportMatrix\)](#) のヘルプページをご覧ください。

▼ CAD 接続 (NX)

- [CAD\[NX\]](#) パッケージに NX バージョン 7.0 のサポートが加わりました。

▼ 参照

[Maple 15 新機能索引](#)